



水門 義昭 議員

高山市に対する 支援組織づくり

高山出身者へのアプローチは

【問】ふるさと納税の現状は。

【答】265件で2628万円余りの寄附を頂いている。

【問】寄附によりどのような事業ができたのか。

【答】寄附金と同額を飛騨高山ふるさと基金から取り崩し、寄附者と市、市民が一体と



ふるさと納税のご寄附で、祭礼の衣装を復興しました

なつてまちづくりを進めている。(例えば写真の様に祭礼復興事業も行いました。)

【問】飛騨会など高山市出身者の会等の現状は。

【答】東京飛騨会をはじめ9団体は把握している。会員の人脉やネットワークを活かして高山のPR等もお願

いしている。

大学などとの連携について

【問】市民活動・生涯学習面での支援体制は。

【答】松本大学など4校との間で連携協定を締結している。

【問】学校教育面での支援体制は。

【答】岐阜大学等と教職員の資質向上と委託事業がある。

高山市民以外からの意見について

【問】先般開催の日本再発見塾の成果は。

【答】貴重なご意見をいただいた。まちづくりにてはゴールがないと改めて感じた。ご意見やご提案に真摯に耳を傾けまちづくりを進めていく。

外部ブレインの組織化について

【問】観光大使、ファンクラブはあるのか。

【答】観光大使の委嘱は行っていない。ファンクラブは平成4年頃に休止している。

【問】仮称「飛騨高山まちづくり支援大使・飛騨高山大使」の設置の考えは。

【答】お知恵などをより体系的に収集する上で有意義なことと考えられているので、その手法などについて今後研究する。



藤江 久子 議員

特養老の増床は、 入所基準の見直しを してから！

男女共同参画社会に向けて

【問】男女が性別に関係なく互いに助け合い暮らしていく社会の構築が急がれている...

【答】「おい、お茶！」夫の声を聞き、足を引きずってお茶を持ってこようとす

る妻、私が見てきた介護の現場です。妻が介護する立場で夫がされる立場なんて、誰にも決められない。



【問】特養老が82床増床されるが入所基準が不透明であり必要性の高い人(要介護度は軽いが家庭内に複数障がい者を抱えていたり、介護者が高齢や病気を抱えている場合など)が入れない場合がある。

【答】若い時からの取り組みが重要であり、意識啓発をしていく。

第5期介護保険事業計画の執行について

【問】介護人が急病になった時や遠方の親戚に不幸があった時などに利用できる「緊急シヨートステイ」が早急に必要なとなっているがその進捗状況は。

【答】情報収集等をしている段階。今後、事業者と協議をしていく。

【問】特養老が82床増床されるが入所基準が不透明であり必要性の高い人(要介護度は軽いが家庭内に複数障がい者を抱えていたり、介護者が高齢や病気を抱えている場合など)が入れない場合がある。

困った時に入れない施設では、どれだけ造っても市民の「困った感」は解消されない。今後は

入所基準の見直しはできないのか。

【答】国の指導の中に「介護度4・5以上の人を70%以上にするべき」との見解等があるためであるが、今後は事業者と協議をしていきたい。

地産地消をどう進めていくのか

【問】地産地消の大切さは周知しているが、それをどう進めていくのか道筋ができていない。飲食業者や市民は直販所やスーパーなどで買っている状況で安定した供給体制が整備されていない。現況について方策は。

【答】情報が不足していることは認識しており今後は、方策について検討していく。



直売所に並ぶ伝統野菜